

会 議 録

- 1 付属機関等の会議の名称
第1回（仮称）篠山市参画・協働プラン策定委員会
- 2 開催日時
平成24年6月22日（金）14時00分～16時30分
*傍聴の受付時間（午後1時30分から午後2時00分まで）
- 3 開催場所
篠山市役所本庁舎3階 301会議室
- 4 会議に出席した者の氏名（敬称略）
 - (1) 委員
小森星児、中塚雅也、直田春夫、西田武司、西潟弘、小林典幸、江坂道雄、杉本稔、
中西文枝、波部香代子、向井千尋、赤穂利和、土性里花、堀毛宏章
 - (2) 執行機関
市民協働課 赤井毅彦、西羅忠和、中野悟
- 5 傍聴人の数
2人
- 6 議題及び講義の公開・非公開の別
すべて公開
- 7 非公開の理由
—
- 8 会議資料の名称
 - ・次第
 - ・（仮称）篠山市参画・協働プラン策定委員会委員名簿
 - ・（仮称）篠山市参画・協働プラン策定委員会設置要綱
 - ・資料1 篠山市の市民活動
 - ・資料2 （仮称）篠山市参画・協働プラン体系図
 - ・資料3 「新しい公共」と参画・協働
 - ・資料4 （仮称）篠山市参画・協働プラン策定委員会の進め方について
 - ・資料5 まちづくり協議会の取り組み、丹波地域団体活動パワーアップ事業採択事業一覧

- ・第2次篠山市総合計画
- ・丹波市参画協働の指針

9 審議の概要

(1) 開会

(2) あいさつ

市長

(3) 委嘱状交付

(4) 自己紹介

各委員から自己紹介

(5) (仮称) 篠山市参画・協働プランについて

事務局より説明(資料1, 2)

(6) 委員長・副委員長の選任

委員互選により

委員長 小森星児委員

副委員長 小林典幸委員

を選任

(7) 協議事項

① 参画・協働について

協議に先立って、「参画」、「協働」についての共通認識を得ることを目的に、委員の一人である直田春夫氏による講演を実施(資料3)

② 今後の進め方について

事務局より説明(資料4)

協議内容

<今後の進め方>

A委員: よく知っている内輪の者同士の協議では、「これは無理だ」となってしまうことでも、外から見ると「まだチャンスはある」、「可能性がある」ということがある。こういう観点から、隣の町や県ではどうやっているかを聴く機会を持つことも大切。

B委員: どういったプランをつくるのか具体的なイメージを出してもらった方が議論しやすい。次回は提示いただけたらと思う。

<プランの内容>

B委員: ソフトの話になりがちだが、ハード整備や地区整備計画との関連性も考えた方がいいのではないか。

参画と協働と言いながら道路整備などは役所任せで進んでいる場合が多い。情報提供を少ししただけで、住民からの意見が無いとそのまま決まってしまう。地区整備計画も策定のルールはあるが、活用ができていない。

ソフト中心の議論になりがちところで、あえてハードを取り入れた視点があってもいいかなと思う。

内容については、参画と協働と言っておきながら若い人と一緒に草刈ひとつできない世の中になっている。華やかなネットワークのイメージだけではなく、地道な静かな協働にも目を向けた方がいい。基本、ベース部分をしっかりおさえる必要があると思う。

行政よりも市民の意識が高く、行政が行政側の役割に戸惑っている印象がある。「市民が何をやるべきか？」といった議論にどうしても偏りがちだが、「行政が何をやるべきか？」を議論できたら。

日本の末端行政は能力が高いので、末端行政の役割は何で、どこまでやらなければいけないかを議論できれば。

C委員： 直田先生の講演で、「縦割りの社会を横につなぐ」とあった。

私の集落で連続して孤独死があり、隣の集落でも起きた。新聞の勧誘員が孤独死を発見したが、地元の住民が気付かなかったことを反省した。集落を見渡せば民生委員、福祉委員、民生協力委員、愛育班がいるが、皆縦割りの仕事になっていて、行政から言われた仕事しかできていない。

横のつながりをつくっていくことを目的に「明るくする会」を立ち上げ、月に1回の会議を重ね、現状を見直そうとしている。

今の縦割りが横に広がると、この問題が解決できるのではと思うが、簡単にはできないので月に1度の会を繰り返している。このつながりをつくっていくのが自治会の仕事でありまちづくりであると思っている。

D委員： 「明るくする会」はすごくいい活動で、おっしゃるとおりと思う。

民生委員、福祉委員、支援センターなどがあるが孤立している高齢者は存在しており、何かそこに新しいものが加わることも必要なのではと思う。

E委員： ひとつの活動をしていこうと思うと色々な団体と関係ができる。私の所属する団体では地元自治会や教育委員会、文化庁、企業、商工会などが関係しており実行委員会を組織している。実行委員会での人員も限られているので連携の在り方のノウハウや、資金面での弱さの課題がある。

足りない面を補い合えるシステムが考えられれば、ほかの活動にも活かしていけるのではと思う。

A委員： それは市民プラザの仕事でもあるが、できればほかの団体でこの活動を見習いたいというところからインターンを受け入れ、手伝いながら学ぶということを行えば後続を育てるという先駆的な試みになる。

篠山には都市的な部分と農村的な部分がある。都市的な部分では子どもの手が離れかけている女性の力を活用するかが重要。

今のところ、この具体的な手掛かりがないが、童謡唱歌の会など、高齢者が集まる組織をつくった例はあるので、そういった成功例の知恵を持ち寄ることも大事。

③ 話題提供

市内で活動が展開されている事例をイメージするために、市内まちづくり協議会部会構成や、過去5年間に丹波 地域団体活動パワーアップ事業採択事業のうち篠山市に該当するものを紹介。(資料5)

④ その他

次回の策定委員会は 平成24年7月25日(水) 午後で調整

(8) 閉会

小森委員長